

手術部

Surgery Unit

手術部長

坂田 隆造



高度な手術を より安全に提供する

手術部では、清潔な環境の維持と感染の防止に向け、無菌手術室(NASAクラス100)2室、内視鏡手術室1室を含む計16室を保有している。手術用材料並びに機器については、内視鏡下手術装置、手術支援ロボット(da Vinci)、手術用顕微鏡、Cアーム形X線撮影装置、各種医用レーザーを装備。滅菌器具を迅速かつ安定に供給できるように、コンテナ導入による手術器具のセット化と自動搬送装置による回収に努めている。また、麻酔記録、看護記録の電子化も進めている。

代表的診療対象疾患

各診療科の入院を必要とする手術を行う。

業務内容の特徴と実績

安全で円滑な手術を行える環境を整備

京大病院における手術が安全かつ円滑に遂行できるように、デイ・サージャリー診療部(DSU)と一体となって運営を行っている。スタッフは、医師が部長以下5名、看護師は師長以下75名(DSU含む)、技術職員2名、事務補佐員1名である。医療器材部から8名の臨床工学技士が配置され、手術部の業務にあたっている。

麻酔記録や看護記録は電子化され、完成したこれらの記録は各部署から電子カルテを通して参照できる。手術室以外でも手術の進行状況が把握できるように、術野のマクロ映像およびマイク映像の転送システムも整備されている。手術器具や麻酔管理に必要な物品のセット化もすすみ、準備時間の短縮とともに、看護師や麻酔科医の業務軽減を図っている。手術部内で使用する薬品は、麻薬、筋弛緩薬も含め、薬剤師が管理している。麻酔科が使用する薬剤は、麻酔管理の方法に合わせてセット化されている。

2011年度にロボット(da Vinci)支援手術が開始され、その件数は増加しつつある。現在、最新式血管造影装置を完備した高規格手術室(ハイブリッド手術室)の設置工事を進めている。

2012年度の手術件数は5,911件(2011年度は5,995件)であった。



高度先進医療の取り組み

手術部で施行される各診療科の高度医療に貢献している。